学校名：県立大和南高等学校

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 23 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・生徒の意欲や探究心を高めるため、組織的、恒常的な授業改善に取組む。 ・令和４年度実施の学習指導要領に基づく新たな教育課程編成を検討し、実施する。 ・年間行事計画において学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。	・新しい学習指導要領のスタートを契機に、ICT の利活用を一層推進し個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。また、探究的な学びの充実や成人年齢引き下げに対応した教科指導の充実に取り組んでいく。 ・一人 1 台端末の導入に伴い ICT 環境を効果的に活用した授業研究を推進する。 ・生徒主体の学校行事をさらに発展させる。	(1)「各教科の特性に応じた『見方・考え方』を踏まえた学習を展開するための ICT の利活用」を研究テーマとし、校内研究の取組を行って学校全体で授業改善に努める。 (2) 一人１台端末の導入に伴い個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る授業のノウハウを共有し蓄積していく。 (3) 生徒主体の学校行事として成長させるために、各グループや学年とが連携を密にし、生徒の活動を支援していく。	(1)教科内だけでなく、教科の枠を越えて互いの取り組みを評価し、学校全体で授業改善に取り組むことができたか。 (2) 一人１台端末と ICT 環境を効果的に活用した授業を意識した教科・科目数、授業時間数。 (3)学校行事ごとの生徒及び職員（状況によっては来場者）へのアンケート調査の結果。	(1) 2 回の相互授業参観で、約半数の教員が同教科、他教科の授業を参観し、改善点等を指摘し合うことができた。また、ICT を様々に利活用した授業の工夫を学校全体で共有することができた。 (2)約 70％の科目が月１回以上 ICT を活用した授業を展開している。 (3)各グループとの連携を図り、行事運営の精選ができた。生徒対象のアンケートにおいても前向きなアイデアが見られた。	(1)相互授業参観の意義を周知することにより、学校全体での取り組み率をさらに向上させる。 (2)ICT を活用する科目数や時間数のさらなる増加を目指し、機種選定を行う。各教科の活用方法の共有も必要。 (3)今後も感染防止対策を考えつつ、生徒による行事活動を新様式に合った形に柔軟に変化させていくことが重要になる。各グループと連携して対応していく。	(1)相互授業参観はよい取り組みだと思う。今後もぜひ継続していってほしい。 (2)一人一台端末の配備により ICT を利活用した授業展開ができることは、生徒にとっても良いと思う。授業の工夫をさらに行ってほしいが、ICT の活用が目的とならないようにしてほしい。 (3)耐震工事や新型コロナ感染予防対策などさまざまな制約がある中で、工夫して取り組んでいる。今後少しずつ従来の形に戻っていけるとよい。	(1) 今年度も「各教科の特性に応じた『見方・考え方』を踏まえた学習を展開するための ICT の利活用」を研究テーマとして校内研究の取組を行った。相互授業参観では約半数の教員が同教科、他教科の授業を参観して改善点等を指摘し合うことができたが、参加率をさらに向上させたい。 (2) ICT 機材を効果的に活用した授業が増え、授業配信をすることにより自宅学習生徒にも対応することができた。さらに活用場面を増やすためタッチペン対応の機種を推奨機種として選定した。生徒一人ひとりの個性や能力を引き出すための活用方法を検討することが課題である。 (3)学校行事のやり方や精選は今後も必要になる。状況に合わせ柔軟に対応できるよう各グループとの連携を図る。	(1)相互授業参観の取り組み率をさらに向上させるため、その意義を周知するよう努めて授業改善を図る。ICT を利活用した授業の工夫を学校全体で共有するとともに、ICT の利活用が目的とならないように、授業の本質である「主体的・対話的で深い学び」の実現を追求する。 (2)授業での活用方法や ICT 機材を効果的に活用するためのノウハウを共有、蓄積していくため、公開研究授業や校内研修を定期的に行う。また、ICT に不慣れな職員に向けてもスタートアップ研修を行う。 (3)体育祭、文化祭職員運営委員会を通して感染予防対策を検討するとともに、耐震工事に伴う不便さを克服する。また、生徒による行事活動の運営を、新様式に合った形で考えていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	・一人ひとりの生徒が高い規範意識と社会性を持つことで、地域に愛され、信頼される学校づくりをめざす。 ・個々の生徒の状況に応じた支援体制の充実を図る。	・様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。 ・校内の教育相談体制を充実させ、支援体制を整備するとともに、いじめを許さない環境づくりに努める。 ・部活動のさらなる活性化を図る。	(1)服装・頭髪・遅刻・授業規律、自転車乗車マナー等について、年間を通じ段階的な指導を行う。 (2) ①教育相談コーディネーターを中心とする教育相談体制を充実させる。②いじめ防止アンケートや個別面談等により、いじめの早期発見といじめを許さない環境づくりに努める。 (3)新入生の部活動体験キャンペーンを全校上げて実施し、その後の各部活動の活動状況を把握する。	(1)再登校指導件数、頭髪指導件数、遅刻指導件数、交通マナーの苦情件数、交通事故件数。 (2) ①スクールカウンセラー利用件数と内容。 ②いじめアンケートの結果。 (3)１年生及び学校全体の部活動への加入率が 50％以上となったか。	(1)・服装・頭髪については大半の生徒が基本的なルールを遵守している。 ・遅刻指導の対象者は 1 年で 10 数名、2・3 年で 20 名強。改善されてはいるが学年が上がるほど増える傾向にはある。 ・定期的に登下校指導を実施し、自転車に関する苦情は月 2～3 件と減少傾向にある。 (2)①SC の利用件数は保護者も含めて延べ 45 件（3/1 現在） ②生徒間のトラブルが複数件あり、対応を継続中。 (3)新入生の部活動体験キャンペーンにより、年度当初の部活動加入率が 54.4％と 50％を超えた。	(1)・全学年での統一した指導と情報の共有を図る。 ・登下校指導を継続しつつ、自転車乗車マナーや交通安全についての意識をさらに高めていく。 (2)①②・生徒情報を共有し、特に様々な家庭の事情を抱えた生徒に対するきめ細かい配慮・支援を継続していく。 (3)部活動加入率の調査を年度末に行った。全体では 50％を維持しているが、1 年生の退部者数が予想よりも多く、課題が残った。	(1)頭髪、服装は落ち着いているという印象を受ける。自転車通学に関しては、通学路を大型トラックなどが走行して危険であり、また、高齢者との接触などもあるので、交通ルールを守って十分に注意をしてほしい。 (2)中学校でも心の支援を必要とする生徒が増えている。来年度 SC の来校が増えるのはよいことだ。教育相談体制をさらに充実させてほしい。 (3) 部活動が盛んで、大和南を希望する中学生も多い。大和南の特色の一つである部活動が今後も盛り上がってほしい。そのための環境づくりには同窓会としても協力したい。	(1)服装・頭髪については、大半の生徒が本校のルールを順守している。 ○遅刻については、前年度に引き続き大幅な改善がみられた。 ○自転車乗車マナーは改善されつつあるが、引き続き重点的な交通安全指導が必要である。 (2)SC の利用が定着し、生徒の悩みの軽減につながった事例も増えた。継続中の生徒間のトラブルについて、引き続き丁寧に対応していく。 (3)部活動体験キャンペーン制度の更新に努め、部活動加入率の調査を年度当初と年度末に今後も行う。	(1)現在の指導体制が形骸化することのないよう、全学年での統一した指導と情報の共有を図る。 ○時間とルールを守ること、とりわけ交通安全ルールを守ることの大切さを粘り強く指導していく。 (2)ケース会議などで生徒情報を共有し、特に様々な家庭の事情を抱えた生徒に対するよりきめ細かい配慮・指導を行う。問題が発生した際の初期対応、保護者への対応を丁寧に、確実に行う。SC に加え、新たに導入された SSW を効果的に活用していく。 (3) 部活動の新入生全員エントリー制度に基づく部活動体験キャンペーンを定着させ、全校挙げての部活動活性化と部員の定着について取り組む。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 23 日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	・将来の職業を意識した探究活動をとおして、生徒の自己実現を果たすためのキャリア教育を推進する。 ・一人ひとりの社会的、職業的自立を目指すために、本校生徒の個性に応じた進路決定を支援する。	・探究活動を充実させ、生徒が自己の興味・関心や適性から将来の職業を意識した進路を考えることができるように支援するとともに、社会的、職業的自立に必要な行動や態度を育む。	(1)探究活動を通して興味・関心を持った事柄について適切な情報収集や分析を行い、表現する手法を学ぶ。 (2)進路ガイダンス等を通して就きたい職業やそれを実現するために必要な手立てを考え、具体的な活動に反映させる意識を育む。	(1)探究活動の充実度。オープンキャンパス等への参加件数。 (2)進路ガイダンス後の進路や職業への意識の変容と行動の変容。社会的、職業的自立に必要な行動や、基本的な学習習慣の定着度。	(1) 体系的な探究活動の枠組みを通して、生徒が目標や関心を持った事柄に関する情報収集を積極的に行い、対面・オンラインによる説明会への参加が増加した。 (2) 生徒の変化に対応したガイダンスを実施した結果、進路目標を早期に明確にした生徒が高い目標を持ち続け進路実現につなげた。	(1) 卒業生の講話などを実施しながら、継続性を持った指導を進めているが、意識の低い生徒への働きかけをさらに充実させる必要がある。 (2) 実力試験や配信などの事後課題を通して現在の学習とのつながりを意識させ、生徒が自主的に学習習慣を定着させるための働きかけを常に行う体制を作る。	(1) (2)生徒自身が目標を持って進路実現を目指すための環境作りに、学校としてさまざま工夫をしていることはすばらしい。その結果、一般受験に最後までチャレンジする生徒が増え、大学進学率の向上につながっていると思われる。また、一定数存在する就職希望の生徒の声も大事にしてあげてほしい。	(1) 進路目標を明確に定め、早期から準備することで、総合型選抜など自分の得意分野を生かした受験などにおいて合格実績を出すことができた。 (2) 目標とする進路を意識させることはできたが、学習到達度の確認や課題配信などを通じた学習習慣の定着や、学習への主体的な取り組みまでには至らなかった。	(1) 面談や適性検査などの客観的資料やインターンシップなどの体験活動を充実させるとともに、部活動、行事などの活性化によっても進路実現につながることを意識させていく。 (2) 特に進路希望が未定など将来への不安を感じている生徒に対し、総合的な探究の時間を活用して、普段の学習と社会生活とのつながりを意識させる指導を行う。
４	地域等との協働	・地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。	・学校周辺の清掃等で、地域の環境保全に協力する。また、学校行事として宮久保凧揚げ同好会との協働を検討する。 ・学校ＨＰ等を通して情報発信の効果を高める取組を行う。	(1)福祉委員会の活動として、宮久保凧揚げ同好会と協働するための手立てを考える。 (2) 自治会や瀬谷養護学校分教室と連携した地域清掃活動を、安全に留意して実施する。 (3)中学校・学習塾等への訪問や学校説明会、学校ＨＰの活用を通して本校に対する理解の向上に努める。	(1)宮久保凧揚げ同好会と協働して活動を行うことができたか。 (2)地域と連携して清掃活動・環境保全活動を行った回数。 (3)学校説明会への参加者数。学校ＨＰの更新回数。学校ＨＰへのアクセス件数。	(1)文化祭において福祉委員会が宮久保凧揚げ同好会と協働して和凧を作成、展示した。 (2)本年度は２回計画をしていたが、感染症の状況を鑑み２回とも中止とした。 (3) 4 回の学校説明会に、中学生とその保護者合わせて延べ 1400 名ほどが参加した。学校 HP は行事等の報告や説明会等のお知らせを中心にこまめに更新した。	(1) 新型コロナ感染症拡大防止対策の観点から直接の協働は叶わなかった。 (2)来年度は感染症対策に則した内容の検討などを講じ実施していく。 (3) 学校説明会等で視聴してもらうための学校紹介動画を新たに制作し、本校に対する理解をより高める。	(1)新型コロナの影響で地域との連携が減っているのが残念。自治会や地域の小中学校との交流が復活するとよい。 (2)地域清掃活動は地域との協働という観点から大切なことなので、今後ぜひ復活させてほしい。その際はPTAや分教室も参加できるとよい。 (3)中学生にとっては高校を知る上で学校説明会や体験授業、部活動見学は大切な機会なので、HP 等を最大限活用して学校紹介に努めてほしい。	1) 宮久保凧揚げ同好会との交流を今後どのように発展させていくかを検討していく。 (2)地域清掃活動においては、感染症対策を講じた内容変更ができなかったため２回とも中止した。地域自治会からも実施要望や協力体制も確認することができたので。内容を検討し計画、実施していく。 (3)公私合同説明会、4 回の学校説明会、体験授業・部活動見学を実施した。学校 HP をこまめに更新し、学校紹介に努めた。大和南の魅力をさらに発信していきたい。	(1) 文化祭において、新型コロナの感染状況を見ながら、生徒と凧揚げ同好会との協働を図る。 (2)感染症対策を講じた内容の検討と地域自治会や大和市と連携を取りながら内容や実施方法を検討していく。 (3)学校説明会に参加する中学生・保護者に本校の様子をより理解してもらうため、学校紹介動画を新たに制作する。ポスターやパンフレットを早期に作成し、積極的に情報を提供する。
５	学校管理 学校運営	・生徒の防災意識を高めるとともに、防災体制の整備を進める。また、環境整備として、ごみの分別、清掃活動を推進する。 ・耐震化工事を計画的に進めるとともに、事故防止に努める。	・DIG （図上訓練）を実施し、生徒の防災意識を高める。 ・清掃用具等を計画的に更新・整備し、清掃やごみの分別の意識を高めるとともに感染防止に努める。 ・耐震化工事を計画的に進める体制を整えるとともに、事故防止に努める。	(1)生徒向けの DIG（図上訓練）を実施して災害時に身を守るための方策を考えさせるとともに学校として備えるべきことを再確認する。 (2)清掃用具等を更新・整備し、日々の清掃活動の充実を図ることで校内美化と感染防止に努める。 (3)南棟から仮設校舎への移動を安全かつスムーズに進めるための体制を整える。	(1)生徒の防災意識が高まったか。（防災訓練後のアンケート結果） ・学校として備えるべきことを確認できたか。 (2)校内の清掃状況、ごみの分別状況。 (3)関係機関と連携しながら、耐震化工事を計画的かつ安全に実施する体制を整え、安全かつスムーズな移動ができたか。	(1)１学年向けの DIG 訓練、全体での２回の防災訓練、ｼｪｲｸｱｳﾄ訓練を通じ生徒の防災意識が高まった。生徒向けのｱﾝｹｰﾄでは約 60％の生徒が意識が高まったと回答しており、防災意識の向上を確認することができた。 (2)計画的な清掃活動を実施し、校内の美化環境を保つことができた。 (3)耐震工事に関して関係機関と連係し、生徒の学習環境や安全面を考慮した教室配置や移動計画を策定し、安全かつスムーズに移動することができた。	(1)DIG について指導する教員に対して計画的にレクチャーし継続的に毎年実施できる体制を整える。生徒向けｱﾝｹｰﾄを活用し、実施後の検証、計画に反映するように行う。 (2)美化の日を学校全体の取組として、さらに周知徹底を図る。 (3)耐震化工事に伴う移動に関して、生徒の安全と学校生活環境に配慮し、関係機関と連携して計画的に実行できるようにする。	(1)3.11 を実体験していない生徒が増えていく中で、防災意識の向上は必要。大和南は避難所指定されているので、DIG 訓練、防災避難訓練は継続的に行ってほしい。方面別帰宅訓練があることは、保護者として安心できる。 (2)「美化の日」の取り組みは今後も継続して、生徒たちの美化意識の向上に努めてほしい。	(1)DIG の実施において、生徒も意欲的に取り組み、防災意識を高めることができた。防災意識の高まりを測るために生徒に対してアンケートを実施して検証し、生徒の実態に応じて改善していくことが今後の課題である。 (2)感染症対策に則した清掃活動を実施することができた。トイレの清掃に関しては、今後の課題として対応する必要がある。 (3)耐震工事に関して学校施設課と業者と連係し、生徒の学習環境や安全面を考慮した教室配置や移動計画を策定し、安全かつスムーズに移動することができた。	(1)DIG について指導する教員に対して計画的にレクチャーし継続的に毎年実施できる体制を整える。タブレット等情報端末機器を活用した方法を計画していく。 (2)毎月の美化の日を学校全体の取組として、全箇所全学年一斉に行い、さらに周知徹底を図る。トイレ清掃に関して、約３年ぶりに生徒が行うよう計画しているので定着に向け清掃方法を検討していく。 (3)耐震化工事に伴う移動に関して、生徒の安全と学校生活環境に配慮し、関係機関と連携して計画的に実行できるようにする。年度末の引越しに向け事前準備を計画的に行う。